

佐賀県研究成果情報（平成 21 年度）

施設キンカンの特別栽培における B T 剤の利用によるハマキムシ類の防除					
〔要約〕施設キンカンで問題となるハマキムシ類対策として B T 剤が有効である。					
果樹試験場・病害虫研究担当				連絡先	0952-73-2275 kajushiken@pref.saga.lg.jp
部会名	果 樹	専 門	果樹病害虫	対象	カンキツ（キンカン）

〔背景・ねらい〕

『佐賀県「食」と「農」の振興計画（平成 18 年 3 月作成）』では、人と環境にやさしい農業が推進されており、安全・安心な農産物の生産、販売を促進している。

既に佐賀県内では、施設栽培のキンカンにおいて、化学農薬と化学肥料の使用を 1/2 以下に減らした特別栽培農産物の生産、販売に取り組まれている。

施設栽培のキンカンではハマキムシの食害が問題となることから、化学農薬に頼らない防除方法として B T 剤の利用を試みた。

〔成果の内容・特徴〕

- 1 B T 剤はハマキムシ類に対して既存の殺虫剤と同程度以上の高い効果が得られる（表 1）。
- 2 B T 剤は *Bacillus thuringiensis*（天敵細菌）の産生する結晶タンパク、胞子などを製剤化したものであり、佐賀県の特別栽培では化学農薬としてカウントされない資材として利用できる。

〔成果の活用面・留意点〕

- 1 園内を観察し、ハマキムシの被害の発生が認められたら、直ちに散布する（初期防除の徹底）。
- 2 ハマキムシは 4 月下旬から 10 月上旬まで年に 4～5 回発生が認められる。
- 3 施設キンカンで問題となるアザミウマ類、カイガラムシ類、ハダニ類などに対して B T 剤の効果は期待できないので注意する。

表1 ハマキムシ類に対するBT剤の効果¹⁾

分類	資材名	倍数 (倍)	A試験(散布8日後調査)		B試験(散布10日後調査)			経費 ²⁾ (円/1000)
			散布後 生幼虫数	死亡 幼虫数	調査 葉数	寄生葉 率(%)	被害葉 率(%)	
B T 剤	ファイブスター顆粒水和剤	2,000	4	47	277	0	0	470
	エスマルクDF	2,000	2	191	441	0	0	630
	チューンアップ顆粒水和剤	4,000	2	101	256	0	0	420
有機リン系	エルサン乳剤	1,000	24	22	-	-	-	300
カーバメート系	オリオン水和剤40	1,000	-	-	274	0	0	620
無 散 布			76	15	119	9.2	59.7	

1)本試験で発生が確認されたハマキムシ類はチャノコカクモンハマキであった
平成21年度 県内標準小売価格より算出

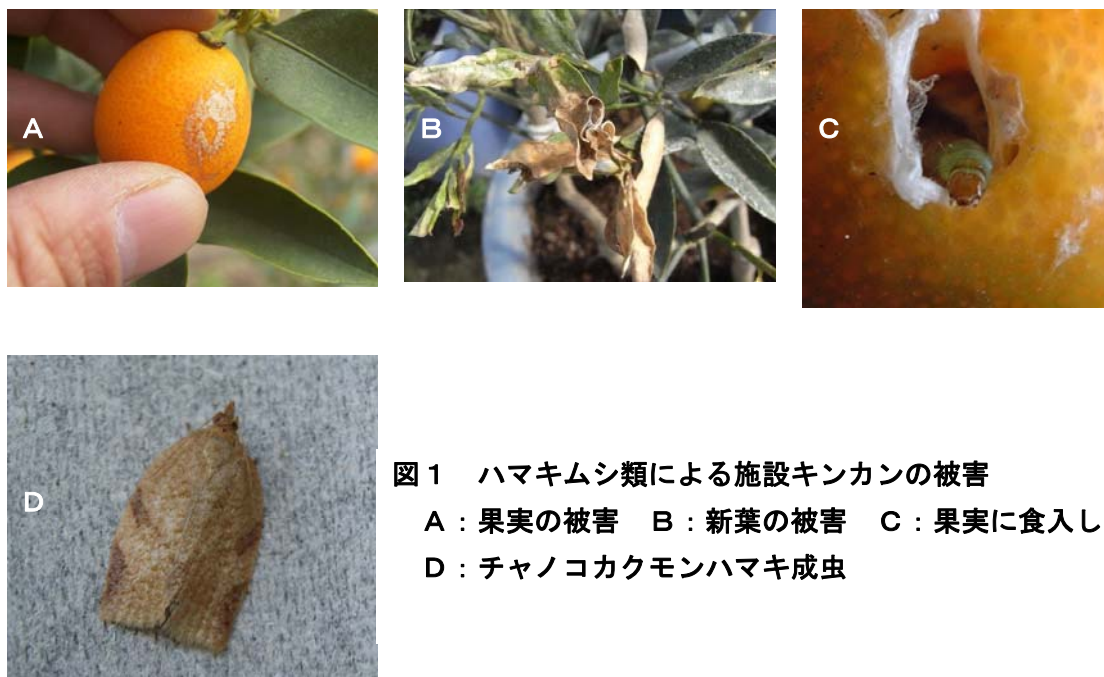


図1 ハマキムシ類による施設キンカンの被害
A : 果実の被害 B : 新葉の被害 C : 果実に食入した幼虫
D : チャノコカクモンハマキ成虫

[その他]

研究課題名：食の安全・安心志向を考慮した施設キンカン防除技術の確立

予算区分：国庫補助

研究期間：平成19年～平成20年

研究担当者：井手洋一、口本文孝、近藤知弥

発表論文等：平成19年度 佐賀県果樹試験場業務年報

平成20年度 佐賀県果樹試験場業務年報

平成22年度 佐賀県施肥・病虫害・雑草防除のてびきに掲載